

5月も半ばを過ぎ、初夏のような陽気が続いています、できれば爽やかな季節をゆっくり楽しみたいですね。現在会員登録数1,676人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は6月20日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 57

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● ウェブサイト「本の海大冒険」をリニューアルしました
インターネットで読みたい本が探せるサイト「本の海大冒険」をリニューアルしました。佐々木マキさんの絵本に登場する「ムッシュ・ムニエル」や「ねむいねむいねずみ」をナビゲートに、クイズや思いついたことばによる本の検索を楽しむことができます。

今回、新しい本の情報やコンテンツの追加、「本さがしゲーム」の更新、作家インタビューの追加などを行いました。また、タブレットやスマートフォンでも利用していただけるようになりました。

※ 平成26年度子どもゆめ基金 教材開発・普及助成活動

<http://www.justice.co.jp/iiclo/>

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『仮面の街』 ウィリアム・アレグザンダー/著 斎藤倫子/訳 東京創元社
2015年4月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：舞台は架空のゾンベイ市。整備された北側と塵が舞う南側。その境に川が流れ、聖域とされる橋がかかっている。市長は市民が演劇をすることを禁じているが、市民でないゴブリンたちは仮面劇をさまざまな場所で行っていた。

市の南側で魔女グラバに育てられている孤児ロウニーは、ゴブリンの仮面劇を隠れて観に行き、ゴブリン一座とともに過ごすことになる。そして、街に洪水が来ること、ゴブリンたちがロウニーの行方不明の兄、ロウワンが洪水を救ってくれると思っていることなどを知る。

Y：ロウニーとともに不思議な世界を体験しました。ゴブリン、魔女などが出てくるファンタジーですが、市長が演劇を禁止したり、洪水を利用して南部を区画整理しようと企てたり、思想統制や民衆抑圧の様子が描かれていた点が興味深かったです。

O：キャラクターや小道具などよく使われているイメージを繋いで、物語が進行するのですが、不穏な空気感や落ち着かない不安感につきまとわれて、なんとか、最後まで読んだのですが・・・

Y：一つの筋としては、孤児のロウニーが行方不明の兄を探す過程で演劇の楽しさを知り、差別を受けているゴブリンの真の姿を知って、ゴブリンと共に生きることを選択するアイデンティティ獲得の物語であり、もう一つの筋としては、洪水が街を襲うのをロウワンが市長に心臓を抜かれながらも川の仮面をかぶって街を救う物語です。加えて、魔女でロウニーの養祖母であるグラバが、逃げ出したロウニーを追う過程で、魔法を使える養孫ヴァスに裏切られながらも、たくましく生きていく様子も描かれます。

O：グラバは、機械仕掛けの鳥のような足をしていて、家が移動するというのはバーバ・ヤガー（スラヴ民話に登場する妖婆）のイメージがもとなっているのかな。

Y：ロウニーはグラバを怖がっていますが、結末の部分で、グラバにも弱点があることがわかり、個性的で印象深い人物だと思いました。

O：警備隊の足も機械でできているし、機械仕掛けの象徴のような巨大な時計が出てきたりして、人工的なものと民話的なものがパラパラと置かれて、仮面劇で政治不安、洪水で地球環境不安というふたつの危機に読者を追い込んでいくしかけがあるのがわかってきます。

Y：ゴブリンたちは仮面をかぶって劇をします。仮面をかぶることによって他者となって寓話的な世界で世の中を批判します。ゴブリンを始めとしてこの作品のみではまだまだ謎が多いのですが、その謎の多さがこの作品の魅力になっていると思いました。続編にも期待したいです。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 57

その9 おはなしを語る（3）おはなしを選ぶ 7

前回は「二ひきのよくばり子グマ」（『子どもに聞かせる世界の民話』矢崎源九郎編 実業之日本社 1964年）の繰り返しの効果について確認しましたが、今回は、聞き手を意識しながら結末について考えたいと思います。

このお話は、二ひきの子グマがチーズの分け方で、けんかを始めたところに、

狡猾なキツネのおばさんがやってきて、公平に分けてあげると言います。世間を知らない子グマはおばさんを信じて、二つのチーズの「大きさが同じか」という一点だけに集中しています。それゆえ、おばさんが、わざとチーズを違う大きさに割って、同じ大きさにするという口実のもと、二つのチーズを交互にかじっていても、子グマは気づきません。最後に、「さあ、これでいいでしょう。さようなら。」とキツネに言われて初めて魔法から解かれたように、チーズは小さくなってしまっており、キツネにまんまとだまされたと気づくのです。

年少の子どもたちは、この部分を聞いている時、子グマに同化して、キツネの繰り返しの魔術にかかり、チーズが同じ大きさになることを期待して、最後に小さくなったチーズを見て、子グマ同様落胆します。少し年長になると、キツネが子グマをだます手法を楽しみ、子グマをかわいそうに思ってはらはらしながら、予想どおりの結末を迎えます。

そして、キツネは小さなチーズを残してすばやく去っていきます。この幕切れが、二つの聞き方いずれにせよ、すっきりとしていて、子グマの心中を想像しながら余韻を持っておはなしを聞き終わることができます。

『子どもに聞かせる世界の民話』では、「かわいそうな子グマたち。よくばったばちが、あたってたんですね。」という、やや教訓的なメッセージが付いています。私としてはこれを特に言わなくても、子どもたちは自分で考えるような気がします。

* 次号は「その9 おはなしを語る(3) おはなしを選ぶ 8」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

資料所在情報データベース補遺篇〈その7〉

ご紹介するのは以下のサイトです。

●国立音楽大学附属図書館 童謡・唱歌索引

<https://www.lib.kunitachi.ac.jp/collection/shoka/shoka.aspx>

〈♪からすなぜなくの からすはやまに〜〉

よく知られた童謡の一節です。題名はご存知でしょうか(答えは本欄末尾に記載)。

人口に膾炙された童謡でも、詳細なタイトル、あるいは2番や3番の歌詞となると、意外に知られていないことも多いものです。

また、いわゆるサビの部分は分かっている、歌い出しが分からないということや、楽譜がどこに掲載されているのか知りたい、というようなこともあるでしょう。こうしたとき、役に立つのが本サイトです。

このサイトは、大正から昭和前期(1912~1945)にかけての童謡や唱歌について、曲名、作詞者、作曲者、テキスト(歌詞の一部)、インチピット(旋律)などから検索できるようにしたものです。それぞれ、ヨミでも検索でき

るようになっていきます。

たとえば、歌詞に〈かなりや〉が出てくる童謡・唱歌を検索してみます。

すると、西條八十：作詞、成田為三：作曲の「かなりや」（♪うたをわすれたかなりやは うしろの～、インチピット：ミソラソドドドレレミソ）や、北原白秋：作詞、草川信：作曲の「揺籠のうた」（♪ゆりかごのうたをかなりやが～、インチピット：ソラソミドレミレラドラソ）など4件が表示されます。さらに、それらの曲が楽譜とともにどの本に掲載されているのか、同大学図書館が所蔵している書誌情報とリンクしており、前者では10件、後者は3件の書誌情報が紹介されます。

現在は、1,200冊あまりの楽譜・唱歌教材・雑誌等から収録しており、今後も継続的に追加されていくということです。明治期のものや、雑誌掲載資料などの増加を期待したいものです。

※次号は、資料所在情報データベース補遺篇〈その8〉の予定です。（J）

※問題の答え＝「七つの子」

《4》 行って来ました！

兵庫県立美術館で6月7日まで開催されている「堀文子 [一所不住・旅展]」に行ってきました。

堀さんは大正7年生まれの日画家で、96歳の現在も描き続けています。この展覧会では、80年におよぶ画業の初期の作品から最新作までの約130点が年代を追って展示され、見ごたえたっぷりです。

堀さんは、同じ生活に慣れて感性が鈍らないようにと、一つのところに安住せず、引っ越しや旅を続けてこられたそうです。40歳代にはヨーロッパやメキシコを巡り、日本では都会で暮らすのをやめて、大磯や軽井沢の自然の中で暮らし、70歳代にはイタリアに住んだり、アマゾンやヒマラヤの秘境を旅したりしたそうです。それぞれの時期で、画風や描かれるものが変わっていくのがわかります。野山の風景に緻密に描かれた植物は輝いているように見えて、画面から語りかけられているように感じました。83歳で大病を患った後も、顕微鏡で観察した微生物の世界を描くなど、描き続ける人生に心を打たれました。

1950年から70年代は絵本や挿絵の仕事も精力的にされています。「こどものとも」の創刊号（福音館書店 1956年）の『ビップとちょうちょう』や、25号の『はなとあそんできたふみこちゃん』（1958年）、「キンダーブック」の『はくちょうのはなし（みにくいあひるのこ）』（フレーベル館 1961年）、『くるみわりにんぎょう』（学習研究社 1972年）の原画も展示されていました。『ビップとちょうちょう』の見覚えのある表紙の絵は、黒い背景に色とりどりの蝶や草花が映えて、とてもきれいでした。（K）

【3】全国のイベント紹介

● 新刊書研究会「2014 子どもの本」

昨年出版された児童書を通して子どもの本の世界に触れてみませんか。知識を広め、子どもの本の楽しさを上げていく学びの場になると思います。

講 師：土居安子（大阪国際児童文学振興財団 主任専門員）

日 時：5月30日（土）午後1時30分～4時15分

場 所：サンスクエア堺 第1会議室（堺市堺区）

資料代：有料

主 催：子どもの読書と教育を考える会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しました『仮面の街』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.57プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想 をお書きのうえoffice@iiclo.or.jpにお送りください。

締切は6月10日（水）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

5月母の日が過ぎ、6月には父の日がある。我が身を省みれば、父としての役割は子らの自立・結婚とともに終え、子としての役割を果たし終えるのも、長くはないだろう…。夫としての役割は、とうの昔に期待されてなく、今はわずかにおじいちゃんの役割にすぎるのみか…孫大迷惑。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
